

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	千葉工業大学		
② 大学等の設置者	学校法人 千葉工業大学	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	千葉県習志野市津田沼2-17-1		
⑤ 申請するプログラム名称	初年次教育と情報処理による基礎教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	平成28	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	270	人
	(非常勤)	246	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数	11		
⑩ 全学部・学科の入学定員	1,990		
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	9,310	
1年次	2,421	人	2年次
			2,300
			人
3年次	2,276	人	4年次
			2,313
			人
5年次		人	6年次
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	松井 孝典	(役職名)
			学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	教務委員会		
	(責任者名)	佐波 孝彦	(役職名)
			副学長(教務委員長兼務)
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	自己点検・評価委員会		
	(責任者名)	松崎 元	(役職名)
			委員長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	教学センター	担当者名	仲村 啓介
E-mail	t-kyoumu@it-chiba.ac.jp	電話番号	047-478-0234

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	初年次教育「修学ガイダンス」では、教養教育の科目概要や教育プログラムの解説を組込んでおり、全学部共通で必修科目となる「初年次教育」「情報処理」の教育プログラムの必要性を説明している。(その他では「キャリアデザイン1・2」「日本語表現法」が必修となっている。)[初年次教育第2回目] <ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0に関連して身に付けておくべき代表的な知識(情報リテラシー、情報セキュリティ) ・社会全般に求められる汎用的能力には、数理・データサイエンスの基礎的な知識や技術が含まれる実情 ・高度情報化が進む社会では、膨大なデータが蓄積され、それらを活用する能力が求められる実情(活用データの事例など)
	1-6	初年次教育「修学上の基本スキル」では、全学生に貸与しているiPadの利活用解説をしており、その中で、本学が学生の窓口相談用に導入しているチャットボット(Ai Watson)の仕組みを説明している。[初年次教育第4回目]
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	情報処理「ネットワークの基礎知識」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第3回目] <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークを利用した情報検索で得られる有益なビックデータの紹介(各自で検索する実習を含む) ・Web上で公的機関が公開している代表的なデータ分析結果の紹介、実習(各自で検索する実習を含む)
	1-3	情報処理「表計算ソフトウェアの基礎操作 正しいグラフの書き方」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第7回目] <ul style="list-style-type: none"> ・Webなどから収集されるデータが社会の広範囲で活用されている状況解説 ・データ分析、活用に必要なモデル化の一つとしてグラフが用いられる状況解説 ・例題となるデータの提示とグラフ化の実習

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>情報処理「表計算ソフトウェアの各種機能の使い方」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第8回目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webなどから収集されるデータとデータの特性に合ったグラフ化の定義解説 ・収集したデータをグラフ化と、知見から予測を立てる手法の解説(特定地域の年齢別人口比率とサービスの展開など) ・グループワーク(Web上に公開されているデータをグループで選定し、どのような知見が得られるかを話し合う)
	1-5	<p>情報処理「表計算ソフトウェアの各種機能の使い方」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第8回目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模データと大規模データの分析手法の解説 ・小規模データと大規模データの分析の実例紹介(小規模データ:工場における生産管理データ、大規模データ:都道府県別年齢別人口比率とサービスの展開など) ・グループワーク(小規模データの事例、大規模データの事例をグループで発表し、共有する)
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>初年次教育「情報スキル」の中で、情報倫理の基本的な内容と特に情報を扱う者としてのリスク、留意するべき点の解説をしている。[初年次教育第6回目]</p>
	3-2	<p>初年次教育「情報スキル」の中で、個人のデータの管理方法、特に留意するべき点の解説をしている。[初年次教育第6回目]</p> <p>情報処理「情報セキュリティ、情報倫理」の中で、標的型サイバー攻撃の手口(メール攻撃)と対策法を解説している。[情報処理第4回]</p>
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>情報処理「表計算ソフトウェアを用いたデータ解析」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第9回目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国勢調査に基づく、総務省の人口統計を読み、男女別年齢別の統計グラフ化 ・グラフの視点を変更する演習(棒グラフから円グラフ)、年齢別人口からリタイア層の割合を抽出 ・モデル化したデータを検証し、知見となり得る事象をグループで共有する。
	2-2	<p>情報処理「プレゼンテーションソフトウェアの使い方(資料作成における注意事項)」の中で、人口統計を用いたモデル化の演習を通し、得られた知見と将来の人口比率の予測をパワーポイントで発表している。(グループワーク、グループ発表)[情報処理第11回目]</p>
	2-3	<p>情報処理「表計算ソフトウェアを用いたデータ解析」の中で、以下の内容を取り扱っている。[情報処理第9回目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国勢調査に基づく、総務省の都道府県別人口データを読み、総計人口に集計作業 ・都道府県別のリタイア層の統計から、全国のリタイア層の平均人口を集計・計算 ・グループワーク(データの集計・計算結果を検証し、知見になり得る事象をグループで共有する)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンスの基礎知識やスキルを学修することで、それらを活用して、世の中のあらゆる分野における将来的な予測、新たな傾向や現象の知見を得るための素地を身に付けることが出来る。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/ai/>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

平成28 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
工学部(工学)	720	2880	850	784	824	753	802	762	857	797	53	36	16	13	3,402	118%
創造工学部(工学)	370	1480	415	401	419	390	413	395	410	380	28	22	7	4	1,692	114%
先進工学部(工学)	340	1360	396	358	376	348	382	368	386	364	35	31	17	16	1,592	117%
情報科学部(工学)	280	1120	329	315	316	303	317	308	315	302	38	31	13	11	1,328	119%
社会システム科学部(工学)	280	1120	312	286	320	302	313	299	316	312	19	17	5	4	1,285	115%
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
																#DIV/0!
合計	1990	7960	2,302	2,144	2,255	2,096	2,227	2,132	2,284	2,155	173	137	58	48	9,299	117%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

千葉工業大学教務委員会規程、学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程

② 体制の目的

千葉工業大学教務委員会は、同委員会規程第1条に「大学全体の教育の充実及び向上に資することを目的とする」と規定しており、初年次教育を所管するとともに、教育課程、授業運営の改善等に関する一環として、「情報処理」も定期的に検討課題としている。(2022年度からは、Ai入門授業を情報処理に組込むことを決定している。)

また、学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程第3条に「自己点検評価に関する具体的な事項の審議及び評価を実施する機関として、自己点検評価委員会を置く。」と規定しており、教務委員会の検討課題や改善結果は、自己点検評価委員会に共有され、適正な検討課題の設定及び改善効果が得られているかを毎年度点検している。

数理・データサイエンスの教育プログラムも定期的に教務委員会で改善に向けた検証と改善項目の実行を行っており、その都度、自己点検評価委員会での内容の適正を点検している。

③ 具体的な構成員

(1) 教務委員会委員長: 佐波 孝彦(情報科学部教授、副学長[教学担当])

⇒副委員長: 筑紫 格(工学部教授、全学共通科目担当)、鴻巣 努(社会システム科学部教授)

⇒委員: 新井 浩志(工学部教授)、田村 洋介(工学部教授)、小田 昭紀(工学部教授)、菅原 真司(工学部教授)、柴田 裕史(工学部教授)、藤井 賢志(創造工学部教授)、松崎 元(創造工学部教授)、青木 岳史(先進工学部教授)、宮田 高道(先進工学部教授)、秋葉 知昭(社会システム科学部教授)、三村 尚央(工学部教授、全学共通科目担当)、加藤 琢真(工学部准教授)、亀田 豊(創造工学部准教授)、根本 直樹(先進工学部准教授)、山崎 治(情報科学部准教授)、喜多村 正仁(社会システム科学部准教授)、軍司 圭一(工学部准教授、全学共通科目担当)、古賀 毅(創造工学部准教授、全学共通科目担当)、小川 靖夫(大学事務局長)、小出 範雄(教学センター部長)、土手内 徹(教学センター次長)、仲村 啓介(教学センター津田沼教務担当グループ長)

(2) 自己点検評価委員会委員長: 松崎 元(創造工学部教授)

⇒委員: 小澤 俊平(工学部教授)、安藤 昌也(先進工学部教授)、鴻巣 努(社会システム科学部教授)、橋口 秀子(工学部教授、教育センター長)、山崎 治(情報科学部准教授)、福江 聡(法人事務局次長、総務部長)、千代田 和夫(教学センター部長)、下山 直人(大学改革推進室長)、畑 憲作(総務部次長)、竹内 秀一(教学センター新習志野学生担当グループ長)、仲村 啓介(教学センター津田沼教務担当グループ長)、小堤 幹太(就職・進路支援部就職担当グループ長)、秋葉 知宏(教学センター研究支援担当グループ長補佐)

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	117%	令和4年度予定	100%	令和5年度予定	100%
令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	7,960

具体的な計画

本学では、入学初期段階における教育プログラムの重要性に鑑みて、「初年次教育」「情報処理」の両科目を全学部共通の必修科目として教養教育課程に編成している。また、新入生には、授業開始前から初年次教育の一部として、修学ガイダンス(教養科目ガイダンスも含む)及び年間履修計画(グループワーク)を実施しており、確実な履修と単位修得に向けた指導を行っている。今後は、1年次必修科目である「情報処理」にAi入門授業を組込むことが決定しており、教育内容の重要性を一層伝えるとともに、徹底した修学指導を継続する。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学では、全ての入学生に対して、大学で学ぶために必要な態度・姿勢、知識・基礎スキルを身に付けさせるために、「初年次教育」「情報処理」を必修科目としている。また、全学部共通の必修科目である観点から、学生の履修に支障が生じないよう、時間割配当上でも他の科目と重複しないように設計している。そのため、入学段階では全ての学生がこれらの科目を履修する仕組みとなっており、プログラム開設時から履修率は100%を達成している。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学では、入学初期段階における履修指導の一環として、授業開始前に初年次教育「修学ガイダンス」及び「履修計画」を開講しており、特に1年次前期の段階で必修科目となっている「初年次教育」「情報処理」については、これらの内容を学修する必要性を解説すると共に、必ず履修登録を行うよう徹底した指導を行っている。そのため、プログラム開設時から履修率は100%を達成している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、入学初期段階における「初年次教育」「情報処理」の重要性に鑑みて、「初年次教育」では、クラス担任の他に事務職員を配置して協働でサポートすると共に、ラポール形成に努めている。また、「情報処理」では、全学生に貸与しているiPadの他に、コンピュータを利用したデータ収集、データ加工・解析などの演習を組んでいるため、TAを配置してきめ細かいサポートを行っている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業内容に対しては、担当教員がオフィスアワーを設定しているので、自由に利用することができる。更に、教員以外にも「情報処理」では、TAを配置しているおり、授業時間内に限らず、授業終了後の質問などに対応している。また、数理の基礎に関する理解が不十分な学生に対しては、「学生サポートセンター」を開設しており、同サポートセンターの講師による個別指導を受けることが可能となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学では、学部の教育課程、授業運営を所管する教務委員会、自己点検評価を所管する自己点検評価委員会の役割を明確化しており、自己点検評価委員会は、年度毎に各委員会の検討事項、検討内容を点検評価する仕組みを整備している。</p> <p>教務委員会では、「初年次教育」及び「情報処理」を全学部共通の必修科目としているため、未修得の状況を把握し、早期段階で修得させるための対応を行っている。(1年次前期開講のため、夏期休暇期間中に再受講の機会を設定する又は後期に再受講の機会を設定することで対応している。)</p> <p>大学の各科目合格率は85%を目標に設定されており、教務委員会から個々の科目合格率が学部長、自己点検評価委員会に共有されている。自己点検評価委員会では、各科目合格率の達成状況、再受講の機会提供の状況を点検評価している。(点検評価結果は、教務委員会にフィードバックされる。)</p>
学修成果	<p>初年次教育、情報処理を起点とする入学初期段階の教育プログラムは、毎年度、教務委員会が主体となり、科目担当者との意見交換を取りまとめて、改善項目を決定している。また、改善項目は、教務委員会から各科目担当者にフィードバックして、確実な改善の実行に努めている。</p> <p>全体的な学生の学修成果は、初年次教育(1年次前期)、キャリアデザイン3(3年次前期)、卒業時に各学部のディプロマ・ポリシーから生成したルーブリックによる自己評価として可視化されており、学生の学修ポートフォリオに記録することで、学生も成長の振返りに活用している。また、これらの自己評価結果は、教務委員会で毎年度分析した後、自己点検評価委員会に共有されている。</p> <p>学生の自己評価結果は、本学のアセスメントポリシーの観点別チェック項目になっており、自己点検評価委員会が点検評価している。(点検評価結果は、教務委員会にフィードバックされる。)</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>本学では、学期毎に開講されている全ての授業科目について、授業アンケートを実施しており、以下の項目を調査している。</p> <p>(1)教員のレクチャースキル ・学生の理解度に合わせた授業進行、教員の話し方、資料・板書の見易さ、質問に対するフィードバック、授業に対する熱意</p> <p>(2)授業デザイン ・学修力や探究力への影響度、将来設計への影響度、事前事後学修の取組み、シラバスの教育目標の達成度、成長した能力、理解を深めるための工夫</p> <p>(3)総合評価 ・次年度履修者へのお勧め度、総合的な授業評価</p> <p>これらの授業アンケートデータの実施と検証は、FD委員会の所管となっているが、特に問題のある科目が発生している場合には、適宜、教務委員会と連携している。FD委員会の活動内容も、自己点検評価委員会に共有されており、授業アンケートの状況、授業改善の状況を点検評価している。(点検評価結果は、FD委員会にフィードバックされる。)</p> <p>更に、授業アンケートの集計結果については、全ての授業科目名と担当者名を明記して、FD委員会から学生にフィードバックしている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本学では、FD委員会が学期毎に集計した授業アンケートの結果を学生にフィードバックする際には、全ての授業科目名と担当者名を明記しており、全ての学生が参照できる環境になっている。そのため、次年度に履修登録を考慮している科目の授業アンケート結果を参照することで、先輩から後輩に授業評価が継承されている。また、2019年度の授業アンケートからは、設問項目として「この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思いますか」を設定しており、過去3年間の平均では「初年次教育」が5点満点中4.2点、「情報処理」が5点満点中3.8点となっているので、多くの学生の理解を得ている。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本学では、入学初期段階における教育プログラムの重要性に鑑みて、「初年次教育」「情報処理」の両科目を全学部共通の必修科目として教養教育課程に編成している。また、新入生には、授業開始前から初年次教育の一部として、修学ガイダンス(教養科目ガイダンスも含む)及び年間履修計画(グループワーク)を実施しており、確実な履修と単位修得に向けた指導を行っている。そのため、開設当初から履修率は100%を維持している。今後は、全ての学生に一層の数理・データサイエンス・Ai基礎教育を推進するため、1年次必修科目である「情報処理」にAi入門授業を組込むことを教務委員会で決定しており、教育内容の重要性を加味した修学指導を継続する。</p> <p>また、教務委員会における改善内容は、自己点検評価委員会に共有され、継続的な改善内容の点検評価を行っている。(点検評価結果は、教務委員会にフィードバックされる。)</p>

学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学では、教育に関する一層の質的向上を図る取組みとして、本学が主催する産学懇談会参加企業に対するアンケート調査を行っている。このアンケートでは、本学卒業生が実際に採用されている企業から、卒業生の「社会人基礎力」「技術者としての能力」を調査しており、「社会人基礎力」では、「主体性」「実行力」「課題発見力」に高い評価を受けている。また、「技術者としての能力」では、「基礎知識」「課題解決力」「成長への意識」に高い評価を受けている。</p> <p>本学における「初年次教育」「情報処理」を起点とした入学初期段階の教育プログラムは、大学生として学ぶために必要な態度・姿勢、基礎知識・スキルを身に付けさせ、それらを活用することの必要性を認識させることが目的となっているので、企業からもこれらの取組みを含めた全体の学位プログラムに高い評価を受けていると認識している。</p> <p>また、この結果は、就職委員会から教務委員会、自己点検評価委員会に共有され、企業からのアンケート結果を点検評価している。（点検評価結果は、就職委員会にフィードバックされる。）</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では、学部教育の教育課程、授業運営、教育制度について、産業界の意見を聴取すると共に、教育の改善に反映することを目的に、千葉工業大学産学連携協議会（幹事会）と連携した取組みを行っている。</p> <p>幹事会は産学連携協議会119社（令和3年度）から選出される17社で構成されており、毎年度の幹事会の中で、教務委員会委員長が本学の「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」の考え方、教育課程編成の方針、教育制度及び改善状況を説明して、意見交換を行う会を開催することとしている。その後、幹事会には、各ポリシーの内容の適正度、教養・専門教育の適正度、各種教育制度及び改善による教育効果への期待度、学生に身に付けさせるべき各能力の必要度をアンケート形式で調査を行っており、教務委員会で回答結果の確認と改善項目の整理を行っている。</p> <p>これまでの幹事会からの意見交換及びアンケート調査結果では、「初年次教育」「情報処理」を起点とする入学初期段階の教育プログラムについて、「教育として必要な要素で、取組みを評価する」との結果を得ているので、現状では適正なプログラムとして機能している。</p> <p>この結果は、学部長会において教務委員長から報告を行うと共に、自己点検評価委員会に共有され、産業界からの意見を点検評価している。（点検評価結果は、教務委員会にフィードバックされる。）</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本学では、入学初期段階の教育として、「初年次教育」の前段では、特に大学で学ぶために必要な態度・姿勢を身に付けさせるよう構成している。本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を実現するために必要な主体性、創造力、チームワーク、倫理観をディプロマ・ポリシーから生成したルーブリックで解説しており、初年次教育の最後には、同ルーブリックによる自己評価を行うことで、学生に早期段階から意識付けをしている。</p> <p>また、教養教育の解説では、将来、技術者として社会で活躍するためには、数理・データサイエンス・Ai(Aiは令和4年度導入)の基礎的な知識・スキルをもとに、それらに応用することが多様な分野で必要であることを解説し、教育プログラムの重要性を認識させている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学では、教務委員会での定期的な状況把握と改善に向けた検討を行っており、既に令和4年度からは、既存の「情報処理」に「Ai入門」の授業を組込むことを決定している。また、本学には、多様な分野で最先端研究を行う付属の研究センターを有しており、特に数理・データサイエンス・Ai基礎教育においては、「人工知能・ソフトウェア技術研究センター」と連携して進めている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/ai/>

科目名	初年次教育				
英語名	First-Year Experience at Universities				
科目担当者	佐波 孝彦（科目責任者）、各学科1年次クラス担任				
単位	1単位	曜日時限	学部・学科毎に異なる。	開講学期	1S
関連するDP	基礎知識、思考力、協働力、倫理観			科目ナンバー	教3102

授業の目的	<p>千葉工業大学で4年間学ぶために必要な知識・技能（学科で学ぶ意義、時間割の考え方、履修計画、レポートの書き方、基本的な倫理行動、安全に生活するための基礎的事項、情報技術の正しい使い方など）や態度・思考（チームワークの手法、積極的に自分から行動する手法、自己の確認、知識の活用方法など）について、テーマ毎に学修する。また、この授業で学んだ知識・技能・態度・思考を積極的に活用することにより、大学生として自立し、充実した生活を送ることを主目的とする。</p> <p>社会システム科学部においては、次の学習・教育目標も適用する。 【学習・教育目標】JABEE認定基準1の学習・教育目標（g）に対応した科目である。</p>
-------	---

到達目標	<p>※基本事項は千葉工業大学基礎能力自己評価項目による。</p> <p>(1) 授業時間表に基づいて履修計画を立てることができる。</p> <p>(2) 学科で学ぶ意義を理解し、修学上の基本的スキルを実践することができる。</p> <p>(3) 学内の各施設を把握し、活用することができる。</p> <p>(4) 大学生として取るべき基本的な行動、大学生活を安全に過ごすための基本的な行動について説明することができる。</p> <p>(5) メールやSNSを使う上で必要な基本的マナーやセキュリティの重要性を説明することができる。</p> <p>(6) 大学貸与のiPadを操作して、必要な情報を見たり、手続きを行うことができる。</p> <p>(7) チームで活動することの重要性を理解し、チーム内での作業を協同することができる。</p>
------	---

授業内容に含まれる要素						
課題解決型	○	グループワーク	○	ディスカッション	○	ディベート
プレゼンテーション		実験・実習・演習		フィールドワーク		

履修制限	特になし。
注意事項・学習アドバイス	<p>授業の学科単位での活動（学科別プログラムからスタートして、修学ガイダンス、履修計画に接続する。）を行った後、テーマ毎に学修する。テーマ毎に学ぶパートでは、学科によって開講順序が異なるので、事前に配付される開講テーマ一覧に従うこと。（開講曜日・限は学科毎に異なるので、所属学科の授業時間表を確認すること。）また、この科目で修得すべき能力を事前配布するので、意識しながら学習すること。</p> <p>実際の科目運営は主として各学科の担任が行うため、質問等がある場合は、まずクラス担任に相談すること。</p>

評価基準												
期末試験%	0	中間試験%	0	小テスト% 回数	0	0	提出物% 回数	100	8	プレゼン% 回数	0	0
<p>テーマ毎に指示される課題を総合して評価する。 この授業の最終回において必ず自己評価を実施すること。※自己評価を実施していない場合には、成績評価の対象者にならず、「欠席」評価となるので注意すること。</p>												

教科書・参考書	iPadやCITポータルに掲載する。
科目アドバイザー	各学科クラス担任
関連科目	キャリアデザイン1

授業内容							
1週目	[学科別プログラム] 所属する学科毎に特色的なグループ活動を行う。様々なグループワークを通して、コミュニケーションやチームワーク、作業分担の重要性を理解すると共に、自己理解を深めて、今後の修学に活用する。 [標準的な学修時間420分(学科毎に異なる)]						
事前学習内容	所属学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをHPで調べ、重要と思う点をノートにまとめる。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	グループワークを通して、重要であると感じた点やワークのポイントについてノートにまとめる。	事後学習時間	2.5
2週目	[修学ガイダンス] 千葉工業大学の授業時間、講義室の配置、掲示板の配置、履修上で必要な事項など、4年間の学修に必要な基本事項を理解する。また、教養教育の仕組みや所属学科で学修する内容・意義などを理解する。 [学修時間：120分]						
事前学習内容	諸手続きで配付されたiPadの個人設定を行い、学生便覧、履修ガイドを必ず一読しておく。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	説明を受けた内容で重要なポイントについてノートにまとめる。	事後学習時間	2.5
3週目	[履修計画] 1年生の基本的なスキルとして、自学科の教育課程表と授業時間表の見方を理解し、自ら1年間の履修計画シートを作成する。 [学修時間：120分]						
事前学習内容	学生便覧と履修ガイドを確認して、自分が履修登録できる科目をピックアップしておく。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	自身の作成した履修計画シートに基づいて、実際に1年間の履修登録を行う。	事後学習時間	2.5
4週目	修学上の基本スキル 千葉工業大学の学生として必要な修学上の基本知識やスキル(大学の歴史、講義形式と受講姿勢、授業時間表の考え方、レポートの書き方など)を解説し、理解度を確認するためのテストを行う。[学びのハンドブックp4~p22の内容]その後、iPadの活用方法を中心に、キャンパスポータルの利用方法と履修登録方法を解説する。						
事前学習内容	学びのハンドブックを読んで、理解したことや興味のある事項をノートにまとめる。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	学びのハンドブックを再度読み直し、CITポータルにアップされている理解度確認テストの内容を復習する。	事後学習時間	2.5
5週目	基本的な倫理観&図書館の利用方法 大学生として学修・生活するために必要となる基本的な倫理行動を解説し、理解度を確認するためのテストを行う(CITポータル)。また、今後の学修に必要な参考資料の探し方や図書館の利用方法について解説する。						
事前学習内容	CITポータルの資料教材を読んで、基本的な倫理のポイントと思う部分をノートにまとめる。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	興味のある図書を図書館で検索し、その図書の内容について要約を作成する。テストの復習を行う。	事後学習時間	2.5
6週目	情報スキル&学生サポートセンター見学 情報リテラシーとして、セキュリティやバックアップの重要性及びWebサイトや電子メールを利用するための基本マナーを解説し、理解度を確認するためのテストを行う。(CITポータル。一部学科では、情報演習室の使い方を解説する。)また、学生サポートセンターの有効な利用が行えるよう施設見学や利用方法の説明を行う。						
事前学習内容	CITポータル「クラスプロファイル」の資料教材を一読し、授業支援システムのビデオ教材を視聴する。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	CITポータル「クラスプロファイル」の資料教材を再度読んで、理解度確認テストの内容を復習する。	事後学習時間	2.5
7週目	安全管理&自己評価 大学での学修・研究上の危険行為や自己管理の手法について解説し、理解度を確認するためのテストを行う。その後、初年次教育における学修の振り返りとして「千葉工業大学基礎能力評価項目(基礎能力カルブリック)」を参照しながら、CITポータル「マイステップ」の「自己評価」を実施する。(併せて、履修登録結果及びTOEICのスコア結果を返却する。)						
事前学習内容	CITポータルの資料教材を読んで、所属学科で重要な安全管理のポイントと思う部分をノートにまとめる。	事前学習時間	2.5	事後学習内容	自己評価結果を確認し、「今後の課題・目標」の達成に向けた取組スケジュールを作成する。	事後学習時間	2.5
8週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0
9週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0
10週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0
11週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0
12週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0
13週目	対象外						
事前学習内容	対象外	事前学習時間	0	事後学習内容	対象外	事後学習時間	0

科目名	情報処理				
英語名	Information Processing				
科目担当者	石川 浩一郎、角張 健一、藤江 真也、今井 順一、山崎 治、秋葉 知昭、下田 篤、大西 幸周、浜田 直道、三代川 由紀子				
単位	2単位	曜日時限	学部・学科毎に異なる。	開講学期	1S
関連するDP	基礎知識、思考力、表現力			科目ナンバー	教2101

授業の目的	<p>現代社会においては情報の処理にコンピューターやネットワークの利用が不可欠となっている。本講義でそのために必要な以下の知識、技能の習得を目的とする。</p> <p>コンピューター、ネットワークの仕組みについての基礎 ネットワーク社会における情報の取り扱いに対する正しい知識の習得。 文書作成、データ処理、プレゼンテーション等に必要ソフトウェアの使い方</p> <p>【学習・教育到達目標】 以下のJABEE学習・教育到達目標を到達目標とする。 (c) ©：数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを用いる能力</p>
到達目標	<p>コンピューター、ネットワークの仕組みについての基礎を理解していること ネットワーク社会における情報の取り扱いに対する正しい知識を習得していること。 日本語ワープロの各種機能を用いて、内容にふさわしいレイアウトの文書が作成できること。 表計算ソフトを用いた、データ解析及び可視化ができること。 プレゼンテーションソフトウェアを利用して資料の作成ができること。</p>

授業内容に含まれる要素							
課題解決型		グループワーク	○	ディスカッション		ディベート	
プレゼンテーション	○	実験・実習・演習	○	フィールドワーク			

履修制限	指定されたクラスで受講すること
注意事項・学習アドバイス	PC及びiPadを使用して講義を行う。特に、工学・創造・先進・の各学部では、PCのみならず、iPadのword、Excel、powerpointを活用して授業を行う。

評価基準												
期末試験%	30	中間試験%	0	小テスト% 回数	0	0	提出物% 回数	70	0	プレゼン% 回数	0	0
目標を達成するために以下の評価を行う。 提出物の回数は担当者によって異なる												

教科書・参考書	担当者ごとに異なる。 担当者の指示に従うこと
科目アドバイザー	
関連科目	特になし

授業内容							
1週目	講義の目的と内容並びに講義の進め方、成績評価などについての説明。 講義で使用する機器についての説明。						
事前学習 内容	シラバスの確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	使用機器の設定および操作の確認	事後学習 時間	4
2週目	コンピューターのしくみ及びその他の基礎知識についての講義 コンピューターの基本操作						
事前学習 内容		事前学習 時間	1	事後学習 内容	講義内容の確認及び基本操作の確認	事後学習 時間	4
3週目	ネットワークの基礎知識 ネットワークを利用した情報検索						
事前学習 内容	コンピューターの基本操作の再確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	ネットワークの基礎知識の復習、情報検索を行う	事後学習 時間	4
4週目	情報セキュリティ、情報倫理についての講義						
事前学習 内容		事前学習 時間	0	事後学習 内容	講義内容の復習	事後学習 時間	5
5週目	文書作成（1） ワードプロセッサの基本操作 レポートの書き方						
事前学習 内容	コンピューターの基本操作の再確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	ワードプロセッサの操作の再確認、レポートの書き方の復習	事後学習 時間	4
6週目	表、図、画像を含んだ文書の作成及び文書作成演習						
事前学習 内容	前回講義で行った操作の再確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	授業で行った操作の確認、講義中に作成した文書を完成させる	事後学習 時間	4
7週目	表計算ソフトウェアの基本操作 正しいグラフの書き方						
事前学習 内容		事前学習 時間	0	事後学習 内容	表計算ソフトウェアの基本操作の確認、グラフの書き方の復習	事後学習 時間	5
8週目	表計算ソフトウェアの各種機能の使い方						
事前学習 内容	表計算ソフトウェアの基本操作の再確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	講義で利用した機能を使ってみる	事後学習 時間	4
9週目	表計算ソフトウェアを用いたデータ解析						
事前学習 内容	表計算ソフトウェアの機能の確認	事前学習 時間	1	事後学習 内容	講義で行った解析の完成	事後学習 時間	4
10週目	プレゼンテーションソフトウェアの使い方 資料作成における注意事項						
事前学習 内容		事前学習 時間	0	事後学習 内容	講義で作成したプレゼンテーションの完成、発表の練習	事後学習 時間	5
11週目	プレゼンテーションソフトウェアの使い方 資料作成における注意事項						
事前学習 内容	発表資料の完成、発表の練習	事前学習 時間	4	事後学習 内容	プレゼンテーションの結果を評価する	事後学習 時間	1
12週目	ここまでの講義のまとめ 定期試験						
事前学習 内容	講義内容全般の復習	事前学習 時間	5	事後学習 内容		事後学習 時間	0
13週目	試験の解説。これまでの学習内容を基に演習を行う。						
事前学習 内容	講義全般の復習	事前学習 時間	1	事後学習 内容	演習課題の完成	事後学習 時間	4

別表第1(第25条関係)

工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

別表第2(第25条関係)

創造工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

別表第3(第25条関係)

先進工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

別表第4(第25条関係)

情報科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

別表第5(第25条関係)

社会システム科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

千葉工業大学教務委員会規程

平成 20 年 4 月 1 日

制定

最終改正 令和 3 年 4 月 26 日

(目的及び設置)

第 1 条 千葉工業大学（以下「本学」という。）に、教授会の円滑な運営及び教育の充実並びに向上に資することを目的として、千葉工業大学教務委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 学籍（休学、復学、退学、除籍など）に関する事項
- (3) 授業運営に関する事項
- (4) 試験及び単位認定に関する事項
- (5) 進級及び卒業に関する事項
- (6) 科目等履修生及び研究生などの受け入れに関する事項
- (7) 教職課程の運営に関する事項
- (8) 学長から諮問された事項
- (9) その他、学部の教務に関する事項

(委員構成及び任期)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長の指名する委員長
- (2) 委員長の指名する各学科専任教員 各 1 名
- (3) 委員長の指名する教育センター専任教員 若干名
- (4) 教学センター部長
- (5) 教学センターグループ長

2 委員長が必要と認めた場合は、委員の中から 2 名まで副委員長を置くことができる。

3 第 1 項に規定する委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員長は、委員会を招集し、その会議の議長を務める。

2 委員長が職務を執行できない場合は、委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第 5 条 委員会は、委員長を除く 3 分の 2 以上の委員の出席をもって成立する。

2 委員会の議決は、出席委員の過半数以上の同意をもって決定する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(運営)

第6条 会議は原則として毎月1回以上開催するものとする。

2 委員会には、第2条第1項第7号に規定する事項について、教職課程の教育の充実及び向上に資するため教職課程運営部会をおく。

3 その他、必要に応じて部会をおくことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、教学センターが行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成28年3月30日から施行する。

附則

この規程は、平成29年7月20日から施行する。

附則

1 この規程は、平成29年12月13日から施行する。

2 この規程及び「千葉工業大学教職課程運営部会細則」の施行をもって、「千葉工業大学教職課程運営委員会規程」は廃止する。

附則

この規程は、令和3年4月26日から施行する。

学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程

平成19年9月25日

制定

最終改正 平成30年7月19日

(目的)

第1条 この規程は、学校教育法第109条第1項に基づき、学校法人千葉工業大学（以下「法人」という。）並びに法人が設置する千葉工業大学（以下「大学」という。）における管理運営並びに教育研究活動等の水準を向上させることを目的として実施する自己点検評価に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(自己点検評価・改善本部)

第2条 自己点検評価の実施・評価・改善等を統括する組織として、自己点検評価・改善本部（以下「改善本部」という。）を置く。

(自己点検評価委員会)

第3条 自己点検評価に関する具体的な事項の審議及び評価を実施する機関として、自己点検評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

(改善本部の責務)

第4条 改善本部は、理事会の命により、本学の自己点検評価活動を統括する。

2 改善本部は、各機関に自己点検評価の実施を指示するものとする。

3 改善本部は、評価委員会に自己点検評価の実施及び自己点検評価報告書の作成を指示するものとする。

(改善本部の構成)

第5条 改善本部は、次の者をもって構成する。

- (1) 理事長
- (2) 学長
- (3) 常務理事
- (4) 常任理事
- (5) 法人事務局長
- (6) 大学事務局長
- (7) 常勤監事

2 前項の他、必要に応じ専任教職員の中から構成員を選任することが出来る。

(改善本部長及び副本部長)

第6条 改善本部に本部長及び副本部長を置く。

2 本部長は理事長とし、副本部長は学長とする。

(評価委員会の責務)

第7条 評価委員会は、改善本部の指示により、法人の運営及び大学の教育研究に関する諸活動について、各機関と連携して自己点検評価活動を実行するものとする。

2 評価委員会は各機関からの報告について点検評価を行い、自己点検評価報告書を作成し、改善本部に報告するものとする。

(構成)

第8条 評価委員会は、理事長及び学長が推薦する若干名の教職員をもって構成する。

(評価委員会委員長及び副委員長)

第9条 評価委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は評価委員会を代表し、その業務を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはこれを代行する。

(評価委員会委員の任期)

第10条 評価委員会委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

(報告及び公表)

第11条 第7条において報告された点検評価報告書は、理事長及び学長の意見を付した上で、改善本部が理事会に提出するものとする。

2 点検評価報告書は、理事会の承認を得た後、改善本部において公表するものとする。

(評価結果の活用)

第12条 改善本部は、点検評価報告書において指摘された項目については、関係各機関に対し所要の改善措置を講ずるよう指示するものとする。

(実施時期)

第13条 自己点検評価は、原則として3年毎に実施することとする。ただし、必要に応じその他の時期にも実施できるものとする。

(外部評価)

第14条 外部評価は、法令に基づき自己点検評価の結果を基に外部の認証評価機関において、7年以内に一度受審するものとする。

2 外部評価の実施に関し必要な事項は、改善本部において適宜定めるものとする。

(事務)

第15条 自己点検評価に関する事務は、総務部が行う。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

1 この規程は、平成19年9月25日から施行する。

2 この規程の施行をもって、従前の「学校法人千葉工業大学自己点検・自己評価規程」は廃止する。

附則

この規程は、平成21年2月26日から施行する。

附則

この規程は、平成30年7月19日から施行する。

学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程

平成19年9月25日

制定

最終改正 平成30年7月19日

(目的)

第1条 この規程は、学校教育法第109条第1項に基づき、学校法人千葉工業大学（以下「法人」という。）並びに法人が設置する千葉工業大学（以下「大学」という。）における管理運営並びに教育研究活動等の水準を向上させることを目的として実施する自己点検評価に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(自己点検評価・改善本部)

第2条 自己点検評価の実施・評価・改善等を統括する組織として、自己点検評価・改善本部（以下「改善本部」という。）を置く。

(自己点検評価委員会)

第3条 自己点検評価に関する具体的な事項の審議及び評価を実施する機関として、自己点検評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

(改善本部の責務)

第4条 改善本部は、理事会の命により、本学の自己点検評価活動を統括する。

2 改善本部は、各機関に自己点検評価の実施を指示するものとする。

3 改善本部は、評価委員会に自己点検評価の実施及び自己点検評価報告書の作成を指示するものとする。

(改善本部の構成)

第5条 改善本部は、次の者をもって構成する。

- (1) 理事長
- (2) 学長
- (3) 常務理事
- (4) 常任理事
- (5) 法人事務局長
- (6) 大学事務局長
- (7) 常勤監事

2 前項の他、必要に応じ専任教職員の中から構成員を選任することが出来る。

(改善本部長及び副本部長)

第6条 改善本部に本部長及び副本部長を置く。

2 本部長は理事長とし、副本部長は学長とする。

(評価委員会の責務)

第7条 評価委員会は、改善本部の指示により、法人の運営及び大学の教育研究に関する諸活動について、各機関と連携して自己点検評価活動を実行するものとする。

2 評価委員会は各機関からの報告について点検評価を行い、自己点検評価報告書を作成し、改善本部に報告するものとする。

(構成)

第8条 評価委員会は、理事長及び学長が推薦する若干名の教職員をもって構成する。

(評価委員会委員長及び副委員長)

第9条 評価委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は評価委員会を代表し、その業務を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはこれを代行する。

(評価委員会委員の任期)

第10条 評価委員会委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

(報告及び公表)

第11条 第7条において報告された点検評価報告書は、理事長及び学長の意見を付した上で、改善本部が理事会に提出するものとする。

2 点検評価報告書は、理事会の承認を得た後、改善本部において公表するものとする。

(評価結果の活用)

第12条 改善本部は、点検評価報告書において指摘された項目については、関係各機関に対し所要の改善措置を講ずるよう指示するものとする。

(実施時期)

第13条 自己点検評価は、原則として3年毎に実施することとする。ただし、必要に応じその他の時期にも実施できるものとする。

(外部評価)

第14条 外部評価は、法令に基づき自己点検評価の結果を基に外部の認証評価機関において、7年以内に一度受審するものとする。

2 外部評価の実施に関し必要な事項は、改善本部において適宜定めるものとする。

(事務)

第15条 自己点検評価に関する事務は、総務部が行う。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

1 この規程は、平成19年9月25日から施行する。

2 この規程の施行をもって、従前の「学校法人千葉工業大学自己点検・自己評価規程」は廃止する。

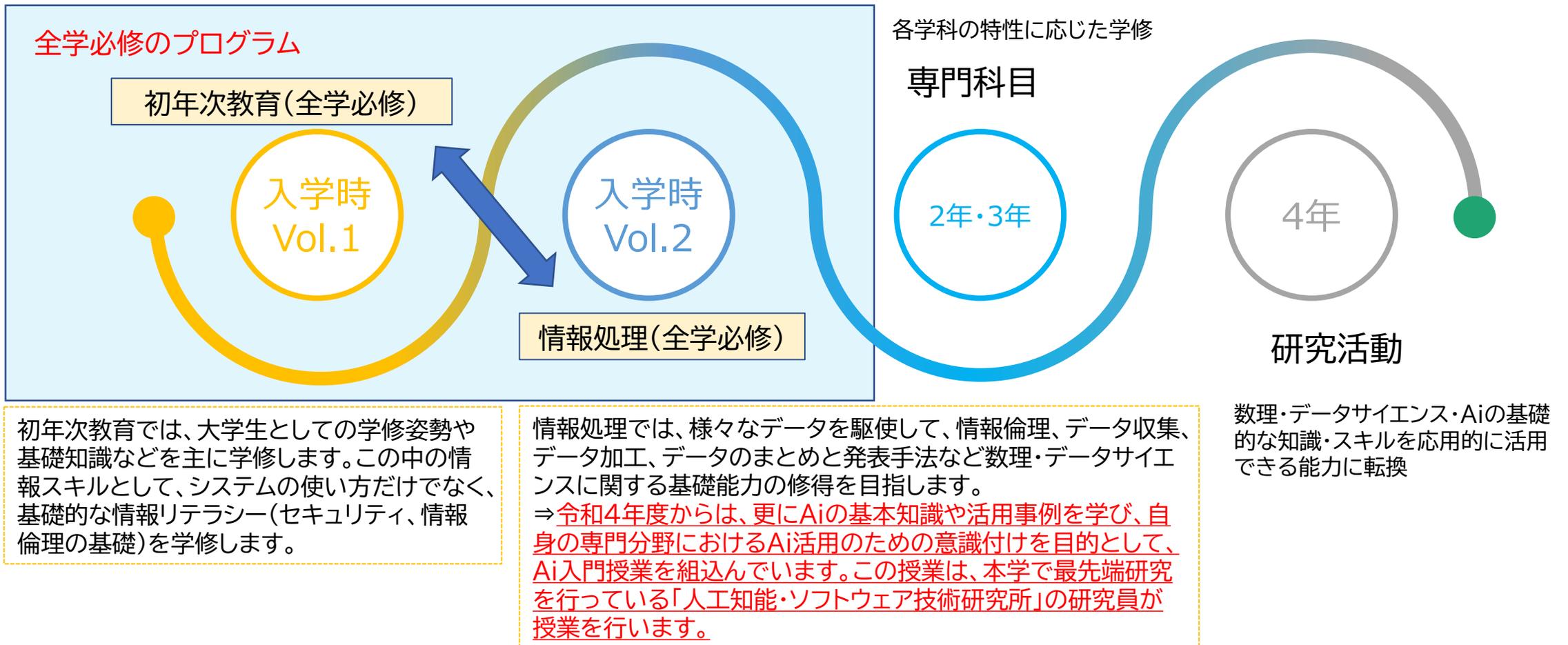
附則

この規程は、平成21年2月26日から施行する。

附則

この規程は、平成30年7月19日から施行する。

千葉工業大学では、平成28年度に教養教育課程の編成を大きく変革し、特に入学初期段階での人間力養成、情報リテラシーの養成を重点的に行っています。「初年次教育」と「情報処理」による教育プログラムもその一環と位置付けています。既に大学のIR活動を通して、入学初期段階での躰きが、その後の修学に大きな影響を及ぼすことが明確となっていますので、このプログラムを全学必修としています。初年次教育では、大学で学修するために必要な態度・姿勢、基礎知識・基礎スキルを身に付けさせ、情報処理では、データ収集・加工、伝達の手法といった数理・データサイエンス・Aiの基礎を身に付けさせています。学生個々に修学上で必要な能力や将来の社会に必要な能力を早期段階で認識させることで、大学での学修がより豊かで実りあるものになると考えています。



[教務委員会]

大学全体の教育課程編成、授業運営、教育制度の管理・運営を担う組織

構成員:

- ・学長の指名する委員長
- ・委員長の指名する各学科専任教員 各1名
- ・委員長の指名する教育センター(共通科目担当) 若干名
- ・教学センター部長、教学センター教務担当グループ長

[自己点検評価委員会]

法人の運営及び大学の教育研究に関する諸活動について、各機関と連携して自己点検評価活動を担う組織

構成員:

- ・理事長及び学長が推薦する若干名の教職員
⇒委員の中から、委員長を選出
⇒慣例により主要委員会の委員が構成員に選出
・教務委員会、学生委員会、就職委員会、FD委員会

